

= 支部だより =

東北支部

東北支部講演会の開催報告

日 時：2011 年 10 月 18 日（火）15:00～18:00

会 場：防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所

プログラム：

1. ブータンヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水に関する研究
西村浩一（名古屋大学）
2. Antarctic precipitation and redistribution（南極における降雪と再配分）
Katherine Leonard（スイス国立雪・雪崩研究所）
3. Drifting snow in an Alpine context（アルプスにおける吹雪）
Florence Naaim（フランス国立農業環境科学研究所）
4. Study on avalanche in Europe（ヨーロッパにおける雪崩研究）
Mohamed Naaim（フランス国立農業環境科学研究所）

東北支部では上記のとおり海外の研究者を講師に交え講演会を開催した（図 1）。参加者は 27 名であった。

西村氏は、ブータンヒマラヤ山脈にある氷河末端における湖の形成とその決壊による洪水被害と近年の地球温暖化との関連について述べ、JICA/JST の国際共同研究のリーダーとして推進している研究の現状を発表した。Leonard 氏は、南極氷床の質量収支を議論する上で正確な降雪量や堆



図 1 講演会の様子（撮影：根本征樹）

積量の見積もりが重要であることを指摘し、強風下での観測の問題、機器の開発研究、並びに南極の海水面上における降雪や吹雪の観測に関し講演した。Florence Naaim 氏は、アルプスにおいて吹雪は山岳道路交通の障害になるばかりでなく斜面に吹きだまりを形成させることにより雪崩の発生要因ともなっていると述べ、フランスにおける吹雪の風洞実験、モデル計算および野外観測との比較について紹介した。Mohamed Naaim 氏の講演では、フランスで実施された雪崩の運動メカニズムを解明するための大規模な野外実験の国際プロジェクトの実験成果と数値モデルによる工学的応用の現状が紹介された。各講演に対し参加者から質問があり、大幅に時間を延長して熱心な討議が行われた。

（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
新庄支所 小杉健二）

（2011 年 10 月 28 日受付）